
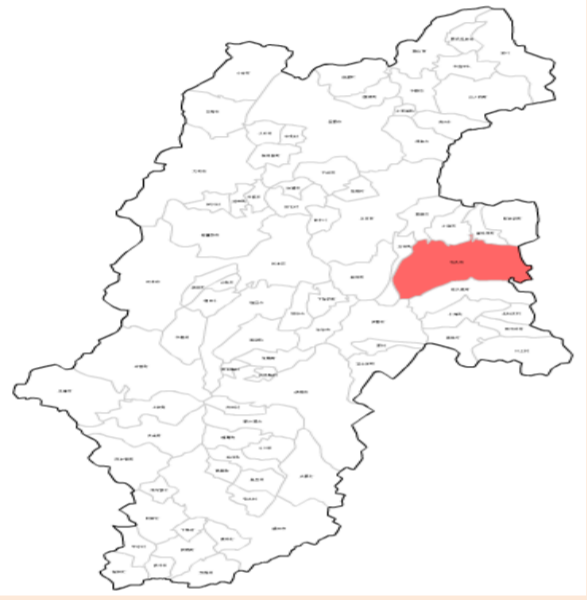

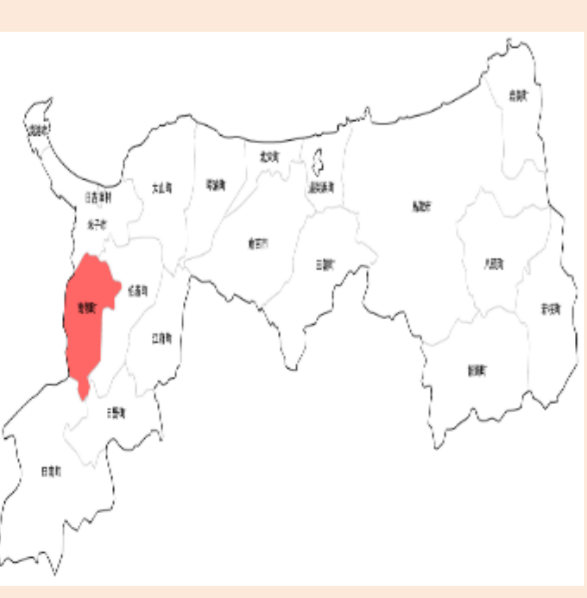




第39回認定(平成28年8月30日) 地域再生計画(生涯活躍のまち形成事業関係)の概要

番号	作成主体名 (地方公共団体名)	地域再生計画の名称	地域再生計画の 区域の範囲	地域再生計画の概要	主なKPI
新規計画 10件					
1	北海道函館市 	福祉コミュニティエリア整備事業(生涯活躍のまち形成事業)	函館市の区域の一部(日吉町4丁目の一部で市営住宅団地跡地)	本事業は、地域包括ケアシステムの考え方にに基づき、住まいや医療・介護・予防・生活支援サービスが一体的に提供される仕組みづくりを行うとともに、年齢や障がいの有無に関係なく、子どもからお年寄り、子育て世代などが自然と交流できるまちづくりを行い、多世代交流施設を中核に地域コミュニティの創出を図る。また、住民が相互に支えあい、住民が主体となって活動できるような環境整備の仕組みづくりを行う。	○福祉コミュニティエリアにおける居住者数 :平成28年度 0人 → 平成37年度 500人 ○福祉コミュニティエリアにおける市外からの移住者数 :平成28年度 0人 → 平成37年度 50人
2	青森県弘前市 	アクティブシニアが活躍するひろさきセカンドライフ・プロジェクト	弘前市の全域	本プロジェクトは、弘前市のまちの魅力に共感するとともに、地域課題の解決に貢献する意欲のあるアクティブシニアの移住を受け入れ、地域住民をはじめとする多様な主体と交流・協働しながら就業、ボランティア等に携わり市内で活躍することを通じて、様々な地域課題の解決に寄与するような仕組みを構築しようとするものである。	○弘前版生涯活躍のまち移住者数(累計) :平成27年度 0人 → 平成32年度 70人 ○市の移住サポートセンターで受け付けた50歳以上の相談者数(各年度の相談者数) :相談者数100人(平成28年度から32年度までの累計)
3	茨城県稲敷郡阿見町 	あみプラチナタウン～人と自然が織りなす首都圏近接型の生涯活躍のまち～	茨城県稲敷郡阿見町の区域の一部(荒川本郷地区)	阿見町は、都心から約1時間でアクセス可能な自然豊かな田園都市である。二地域居住することが可能な60代のアクティブシニアをメインターゲットに、東京圏からの移住を促進することによって、町の社会資源と自然環境が調和した、社会参加型の生涯活躍のまち「あみプラチナタウン」を形成する。地域住民、医療機関、介護施設、大学などの相互連携によるサービスメニューの強化により、移住者が移住者間のみならず、地域社会に溶け込み、多世代との協働や地域貢献することが可能な環境と地元の雇用を創出する。	○東京圏からのアクティブシニアの移住相談件数(移住相談件数) :平成33年度までに650件 ○東京圏からのアクティブシニアのお試しツアー参加人数(ツアーの参加者数) :平成33年度までに325人 ○東京圏からのアクティブシニアの移住人数(移住人数) :平成33年度までに90人
4	石川県白山市 	多世代参加による生涯健康・活躍を目指す「ごっちゃん」プロジェクト	白山市の区域の一部(出城地区)	白山市、社会福祉法人佛子園、学校法人金城学園金城大学の3者が相互に連携・協力し、社会福祉法人佛子園本部の拠点となっている白山市の区域の一部である出城地区を対象に、タウン型・大学連携型CCRCの実現を目指す。希薄になりつつある地域や世代間の関係性を解消し、安心・安全で文化的な生活を、生涯住み続けたいと思うまちづくりを進めるため、社会福祉法人佛子園の多機能施設を中核とし、高齢者・子ども・障害者・学生などが「ごっちゃんまぜ」で暮らせる地域・多世代交流等を支援する取組によるまちづくりに取り組む。	○北安田町(出城地区の一部)の世帯数 :平成28年度 630世帯 → 平成32年度 660世帯

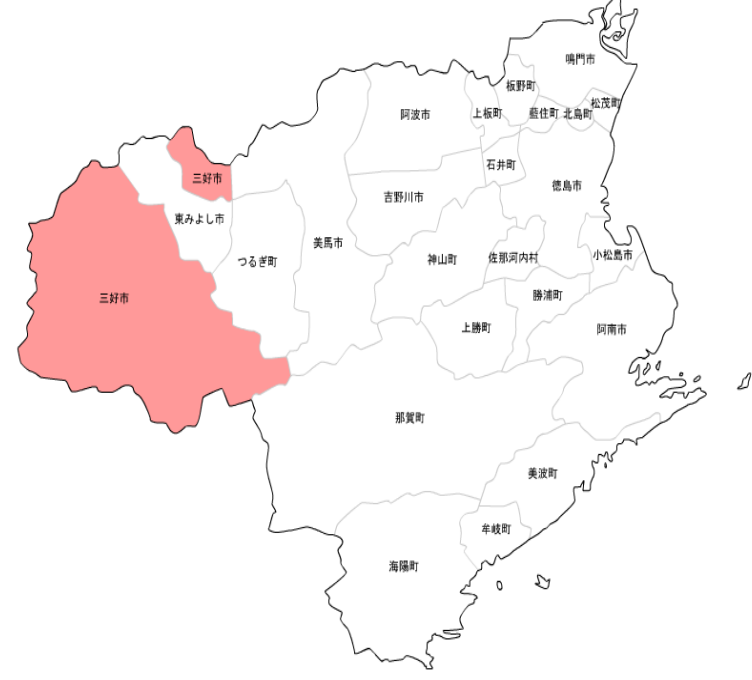
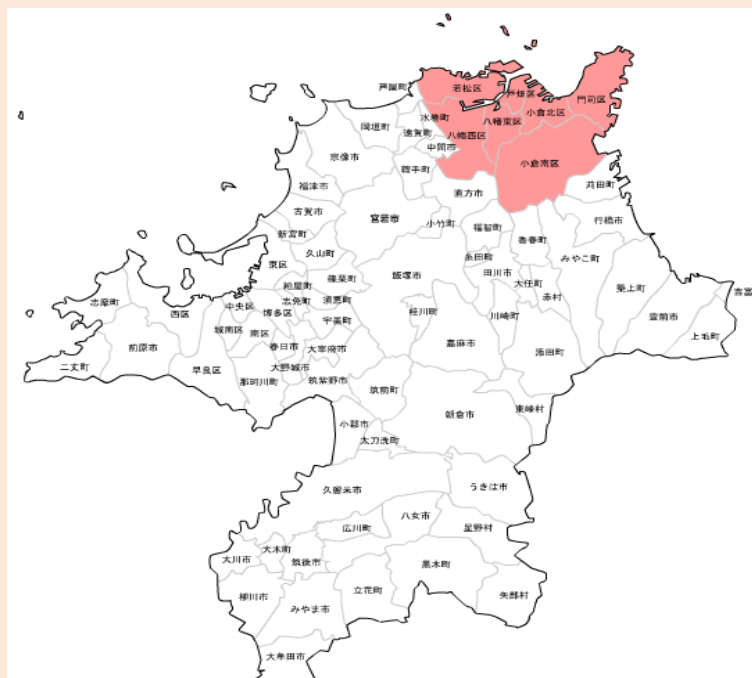
第39回認定(平成28年8月30日) 地域再生計画(生涯活躍のまち形成事業関係)の概要

番号	作成主体名 (地方公共団体名)	地域再生計画の名称	地域再生計画の 区域の範囲	地域再生計画の概要	主なKPI
新規計画 10件					
5	山梨県都留市 	生涯活躍のまち・つる推進事業	都留市の区域の一部(下谷地区及び田原地区)	本市の特長である市内に立地する3大学等と、民間事業者等と連携し、元気な高齢者を地域に呼び込む「生涯活躍のまち・つる」を展開することにより、新規雇用の創出と、高齢者をターゲットとした地場産業・新規創業の仕組みとネットワーク化を図る。また、本市への移住者に対しては、大学相互・大学と市の連携を行い、質の高いプログラムや、社会的活動への参加のきっかけづくりを提供する。このことにより、地域全体の総合力を向上させ、ひいては『市民全体の豊かな暮らし』を実現させることを目標とする。	○生涯活躍のまち・つるに伴う移住者数 :H29年3月末 0人→H33年3月末 150人 ○お試し居住の体験者数 :H29年3月末 20人→H33年3月末 100人
6	長野県佐久市 	臼田地区生涯活躍のまち計画	佐久市の区域の一部(臼田地区)	佐久総合病院を中心に住民とともに育んできた地域医療の歴史、地域と一体となった保健予防活動などによる全国トップレベルの「健康長寿」の実現、地域包括ケアが充実している強みと、就業やボランティア活動、生涯学習活動など社会活動参加へのワンストップでの体制を構築することで首都圏等の中高齢者の移住を促し、移住者が地域社会との共働により、相互が主体として「愛され、褒められ、期待され、期待に応える」幸福のサイクルを体現し、必要に応じて医療・介護を受けながらずっと住み続けることができるまちを実現する。	○移住促進センターにおける相談者のうち佐久市への移住者数:(※住まい整備が整うまでは移住相談件数) :平成28年度末 200件(相談件数) 平成29年度末 200件(相談件数) 平成30年度末 40世帯(世帯数)
7	兵庫県三木市 	多世代共生による都市近郊型のまちの再生～みんなが輝く 生きがいあるまち 三木～	三木市の区域の一部(三木市緑が丘町)	三木市は、高度成長期に開発された住宅団地が、開発後45年以上となり高齢化・空洞化が進み、消滅の危機を迎えている。全国的に例のない戸建住宅団地の再生によりまち全体を活性化するため、土地利用見直し、団地内住み替えの促進、少子高齢社会に対応した各種生活支援サービスの創出などを進め、団地の魅力を大幅に高めるとともに、生涯活躍のまちづくりにより大都市圏からの移住を促進し、人口バランスを整え多世代が交流・共生し、いきいきと暮らせる持続可能なまちづくりを推進する。	○戸建住宅への移住世帯数(累計) :H28年度 2世帯→H32年度 100世帯 ○整備集合住宅への移住世帯数(累計) :H28年度 0世帯→H32年度 100世帯
8	鳥取県西伯郡南部町 	南部町版生涯活躍のまち推進プロジェクト	鳥取県西伯郡南部町の全域	当町の地域特性を生かし、都市圏に住むアクティブシニアが自らの希望に応じて移住し、地域の仕事や社会活動、生涯学習などの活動に積極的に参加し、多世代と交流しながら継続的なケア体制を確保することで、地域が求める人材を都市部から誘致し、地域住民と一緒に地域活性化に向けた取組を行うことを目指すもの。	○南部町への転入数 :平成27年度(年間310人)比較で平成33年3月末までに累計200人増

第39回認定(平成28年8月30日) 地域再生計画(生涯活躍のまち形成事業関係)の概要

番号	作成主体名 (地方公共団体名)	地域再生計画の名称	地域再生計画の 区域の範囲	地域再生計画の概要	主なKPI
新規計画 10件					
9	岡山県勝田郡奈義町 	自然とアートの「生涯『総』活躍のまち」づくり計画	岡山県勝田郡奈義町の全域	奈義町では、進学や就職を機に若い世代が町外へ流出し、人口減や高齢化が進んでいる。 中山間地域の小規模自治体であっても、町の強みである「自然」と「アート」を活用し、奈義町でしか体験できない社会的活動や理想的な住まい、継続的なケアを提供し、地域の自然・文化・歴史等を踏まえた「タウンプライド」の下で、年齢や性別、障害や課題の有無等に関わらず、全ての町民や訪れた人が、自分らしい「豊かな暮らし」「豊かな時間」を過ごすことができる、「生涯『総』活躍」のまちづくりに取り組み、偏りのない構成での人口維持を目指す。	○社会増 :平成28年度 50人 → 平成32年度 150人
10	大分県別府市 	日本中の癒しをすべて集めたまち-温泉と医(いや)しと学びへの誘い-	別府市の全域	「生涯活躍のまち」の実現に向けて、「生涯活躍のまち基本指針」の策定、運営推進法人の選定に取り組む。 「生涯活躍のまち形成事業計画」を策定し、中高年齢者の社会的活動への参加の推進、高年齢者に適した住宅の整備、継続的なケアの提供体制の確保、移住支援、地域社会(多世代)交流・協働、生活全般のコーディネートなどに取り組む。	○50歳以上の社会増(平成28年度から平成32年度までの累計) :50人以上

第40回認定 地域再生計画(生涯活躍のまち形成事業関係)の概要

番号	作成主体名 (地方公共団体名)	地域再生計画の名称	地域再生計画の 区域の範囲	地域再生計画の概要	主なK P I
新規計画 2件					
1	徳島県三好市  平成28年11月29日認定	三好市生涯活躍のまちづくり計画	三好市の区域の一部(池田地域)	移住促進(移住者の受け入れ)を通じ、 ①40歳以上(50代のシニア層を中心)の「移住希望者」にとっての自分らしいライフスタイル実現を支援するとともに、 ②移住希望者を「受け入れる地域」が抱える課題(医療・福祉の担い手の確保、事業の承継等)を移住者とともに解決し、 ③「三好市全体」の地域力向上や、持続可能なまちづくり(地域資源の再生、関係人口づくり、地域包括ケアの構築促進等)を実現する、「三方(移住希望者、受け入れ地域、三好市全体)よし」の取り組みを実践していく。	○UIターン件数 平成27年度 135件 → 平成32年度 170件 ○生涯活躍のまち構想の推進による移住(希望)者数(累計) 平成27年度 0人 → 平成32年度 100人 ○移住相談件数 平成27年度 86件 → 平成32年度 200件
2	福岡県北九州市  平成28年12月13日認定	住むなら北九州市！北九州市版生涯活躍のまち	北九州市の全域	「北九州市版生涯活躍のまち」では、アクティブシニアの移住・定住を促進するための事業に市全体で取り組んでいくとともに、市内の複数地区において「北九州市版生涯活躍のまち」を体現するようなモデルエリアを形成していく。モデルエリアにおいて、「北九州市版生涯活躍のまち」の形成に取り組むため、中高年齢者の社会活動への参加推進、高年齢者の居住環境の整備、地域における継続的なケアの提供、その他移住支援を行う。	○北九州市への50歳以上の転入増加者数 448人(平成28年度から32年度までの累計) ○50歳以上の「北九州市すまいるクラブ」(北九州市への移住希望者の会員制度)登録増加件数 220件(平成28年度から32年度までの累計) ○お試し居住延べ宿泊増加数 700泊(平成28年度から32年度までの累計)

「生涯活躍のまち」について

「生涯活躍のまち」構想

地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の住民（多世代）と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指すもの。

中高年齢者の希望に応じた住み替えの支援

- ・東京圏等大都市から地方への移住にとどまらず、地域内で近隣から「まちなか」に住み替えるケースも想定。
- ・入居者は、中高年齢期の早めの住み替えや地域での活躍を念頭に置き、50代以上を中心。
- ・移住希望者に対し、きめ細かな支援（事前相談、お試し居住など）を展開。

「健康でアクティブな生活」の実現

- ・健康時からの入居を基本とし、健康づくりや就労・生涯学習など 社会的活動への参加等により、健康でアクティブな生活を目指す。

地域住民（多世代）との協働

- ・地域社会に溶け込み、入居者間の交流のみならず、地域の若者等多世代との協働ができる環境を実現。大学等との連携も。

「継続的なケア」の確保

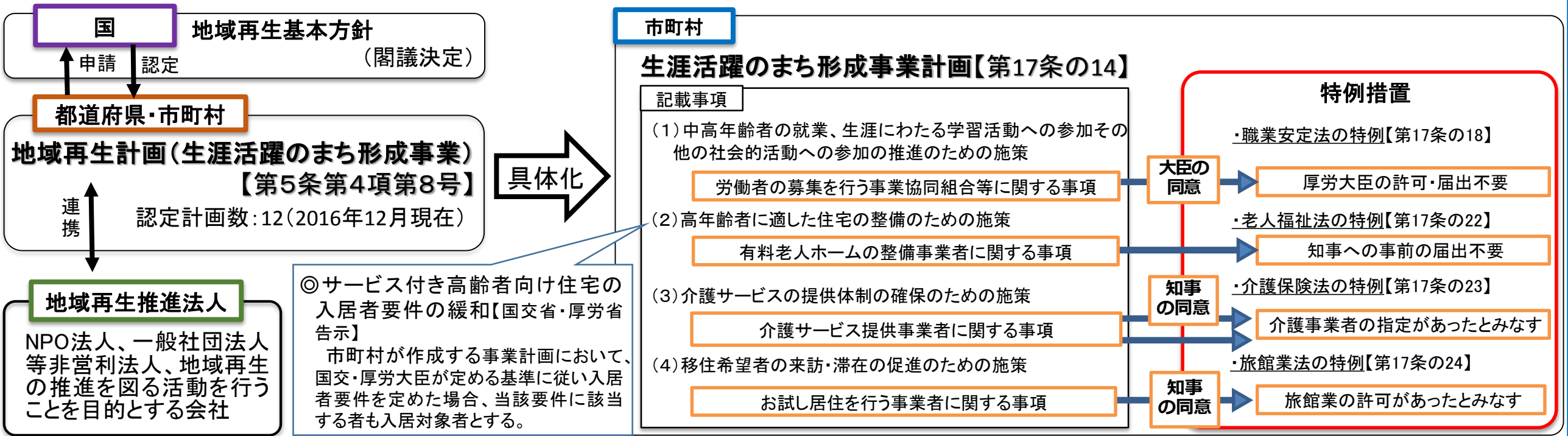
- ・医療介護が必要となった時に、人生の最終段階まで尊厳ある生活が送れる「継続的なケア」の体制を確保。

地域包括ケアシステムとの連携

- ・受入れ自治体において、地域包括ケアシステムとの連携の観点から、入居者と地元住民へのサービスが一体的に提供される環境を整備（既存福祉拠点の活用、コーディネーター兼任等）することが望まれる。空き家など地域のソフト・ハード資源を積極的に活用することも。

推進意向のある地方公共団体数
236(2016年10月現在)

地域再生法の改正（平成28年4月20日施行）：「生涯活躍のまち形成事業」の導入



■情報支援

- 構想の具体化プロセスに関する『生涯活躍のまちに関する「手引き」』を作成

■人的支援

- 関係府省からなる「生涯活躍のまち形成支援チーム」による支援

■財政支援

- 財政的支援（地方創生推進交付金等）を通じた先駆的な取組の支援など